

令和3年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果 (○) と課題 (▲) 全国差：全国平均正答率との差

| 中 学 校 国 語 | |
|-------------------------|---|
| 全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析） | |
| ▲ | 平均正答率は、63.0%である。 |
| ▲ | 平均正答数は、8.9問/14問であり、全国をやや下回る。※全国9.0問/14問 |
| ▲ | 市の平均正答率は、全国差-1.6%である。 |
| 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式別結果 | |
| ▲ | 学習指導要領の領域「読むこと」では、全国差-1.8%である。 |
| ▲ | 評価の観点「読む能力」では、全国差-2.3%である。 |
| ▲ | 問題形式「選択式」では、全国差-2.1%である。 |
| 問題別結果（正答率、無回答率からの分析） | |
| ○ | 4-三「相手や場に応じて敬語を適切に使う」では、全国差+2.1%である。 |
| ○ | 1-二「質問の意図を捉える」では、全国差+0.2%である。 |
| ▲ | 14問中6問で、全国の無回答率を上回る。 |
| ▲ | 3-二「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」では、全国差-5.0%である。 |
| ▲ | 4-二「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」では、全国差-2.9%である。 |

今後の方策例

「叙述を根拠に自分の考えをもつ授業展開例」

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（国立教育政策研究所）より

第2時～第4時

- 5 第1時に読んだレビューを基にして「吾輩は猫である」の別の場面を各自で選んで読み、4の学習を踏まえて自分の考えをノートに書く。

※ ここでは、「吾輩は猫である」の最初の場面を取り上げた学習例を示している。生徒の実態に応じて、教師側で取り上げる場面を決めたり、文章の長さを工夫したりすることも考えられる。



別の場面を読む際にも、具体的な叙述に基づいて自分の考えをもつことが大切です。その上で、互いの考えを交流することで、作品の受け止め方がより豊かなものになります。

- 6 5で書いた内容をグループで交流し、互いにコメントを書く。

交流する際の観念の例

- 取り上げた叙述について、どのように理解したかが書かれているか。
- 具体的な叙述を基にした考えが書かれているか。
- 自分自身の考えと共通している点や異なっている点はどこか。



など

（夏目漱石「吾輩は猫である」による。）
吾輩の主人は、めったに吾輩と顔を合わせることはない。職業は教師だそうだ。学校から帰ると終日書斎にはいったがり、ほとんど出てくることがない。うちのものは大変な勉強家だと思っている。当人も勉強家であるのかのこくく見せている。しかし実際は、うちのものがいうような勉強家ではない。吾輩はときどき忍び足に彼の書斎をのぞいてみるが、彼はよく昼寝をしていることがある。ときどき、読みかけてある本の上によだれをたらしている。

〔最初の場面〕
吾輩は猫である。名前はまだない。どこで生まれたか、とんと見当がつかぬ。なんでも、薄暗いじめじめしたところでニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここではじめて人間というのを見た。しかもあとで聞くと、それは書生という、人間中でいちばん悪な種族であったそうさ。この書生というのは、ときどきわれわれをつかまえて煮て食うという話である。しかしその当時はなんとという考えもなかったから、べつだん恐ろしいと思わなかった。ただ彼ののひらにのせられてスーと持ちあげられたとき、なんだかフワフワした感じがあつたばかりである。